

大阪市立
西淀川
特別支援学校

タイトル(テーマ)
「ぼくのひとり写真展」

西淀川 No 13 号

平成
27 年 3 月 31 日

対象の児童生徒
中学 部 3 年

困り感
発語としての言語が未発達な子が何を見て何を感じているのかを、もっと知りたい。



取り組みの内容・授業の様子等

【使用アプリ、機器等】:「カメラ」、プリンター

【内容・授業の様子】:標準搭載のアプリである「カメラ」は画面いっぱいに映像が映り、軽いタッチでシャッターを押すことができる。保護者と相談し、週末に家で写真を撮り、週明けに学校でも撮るのを宿題として実施してもらった。同じく標準搭載の「PhotoBooth」で万華鏡風の写真なども撮ってきていた。

←作品展で写真展を開かせてもらいました。

↓実際に撮ってきた作品

「好きな先生」 「ぼくんちの車がない！」 「走る友だち」 「あの車はデイサービスの車と同じや！」

成果と今後の課題

【成果】発語の未発達な子どものコミュニケーションでは、写真カードやシンボルを使うことが多いが、そればかりだとどうしても限定的な「ことば」になってしまわないだろうか。その子の撮った写真にタイトルをつけていくと、その子が考えていることや感情も（間違っているかもしれないが）、ひっくるめて触れることができるように思える。

【課題】自宅に持ち帰る場合、個人情報保護のため、友だちの顔などを撮影することができないが、友だちや人が一番興味の対象になりやすい。

